

国際会議

「シリア世界遺産の次世代への継承を目指して-パルミラ 奈良からのメッセージ」 滝沢政務官ステートメント

2017年7月11日

- 荒井 奈良県知事,
リズク UNDPシリア事務所長,
ご列席の皆様,
- 2011年3月にシリア危機が始まってから、既に6年以上の歳月が流れています。数十万人の命が奪われ、難民・国内避難民を含め、多くのシリア人が人道支援を必要とする状況が続いています。しかし、危機に瀕しているのは、シリアの人々だけではありません。長い歴史を持つシリアの歴史・文化遺産もまた危機に瀕しています。紛争による破壊に加え、文化財の盗掘や不法取引も深刻です。
- 今回の国際会議のテーマともなっているパルミラは、1980年にユネスコの世界文化遺産に登録されたシリアを代表する遺跡の一つです。2015年5月にISILがこの地を制圧したことで、国際社会は、人道状況に加えて、遺跡の保護という問題を想起することになりました。パルミラの遺跡の一部はISILによって破壊され、遺跡の保護に携わっていたハーリド・アスアド元パルミラ博物館館長がISILに殺害されるという悲劇が起こりました。本日もパルミラ博物館の関係者が参加されておりますが、この場をお借りして、改めて哀悼の意を表します。こうした悲劇を繰り返してはなりません。
- ISILは今、イラク及びシリアで支配地域を減少させています。しかし、シリアの人々は未だ様々な立場に分かれ、国際社会も含めた様々な努力にもかかわらず、シリア危機は続いています。本日から始まるこの国際会議は、政治プロセスや停戦を話し合う会議ではありません。しかし、シリアの世界遺産を守り、次世代に継承したいとの目的の下、シリアや国際社会の考古学関係者が、日本の古都である奈良で一同に会することは、意義深いことです。こうした会議が実現したのも、長年文化遺産保護の分野でシリアとの深い協力関係を築いてこられた日本の専門家各位のご尽力の賜物です。この場をお借りして、シリアの国が困難な時期にも協力を継続されてこられた先生方とこの会議を主宰された奈良県立橿原考古学研究所に敬意を表し、この会議が、シリアの人々にとり、ともに将来に目を向ける上での重要な機会をなることを期待します。
- 我が国は、文化遺産の不法取引を憂慮し、国連安保理における決議を受け、シリアにおいて不法に取得された文化財については、輸入の規制措置をとっております。

- また我が国は、2012年以降、シリア、イラク及び周辺国に対して、総額約19億ドルの支援を実施してきました。その中で考古学を含めた様々な分野での人材育成を実施しており、今回の会議も、我が国による国連機関を通じた人材育成支援の一環として開催されるものです。
- 日本は、この未曾有の人道危機に対し、引き続き、人道、政治面で責任ある役割を果たしていく決意を改めて表明し、私からのご挨拶といたします。
ありがとうございました。 (了)